

あたらしくはいった本 (令和5年12月 貸出開始資料から)

- 小説 絡新婦の糸(中山七里/著) 自分以外全員他人(西村亨/著) FICTION(山下澄人/著) 商い同心 人情そろばん御用帖(梶よう子/著) 戦国武将伝 西日本編・東日本編(今村翔吾/著) タスキ彼方(額賀滯/著) 続きと始まり(柴崎友香/著) パッキパキ北京(綿矢りさ/著) 桃太郎のユーウツ(玄侑宗久/著) 令和ブルガリアヨーグルト(宮木あや子/著) ああ、ウィリアム!(エリザベス・ストラウト/著) 傷を抱えて闇を走れ(イーライ・クレイナー/著)
- 随筆・詩などの文学 その世とこの世(谷川俊太郎、ブレイディみかこ/著) 水歌通信(くどうれいん、東直子/著) 入門山頭火(町田康/著) 文学が裁く戦争(金ヨロン/著)
- その他の本 路上のセンス・オブ・ワンダーと遙かなるそこらへんの旅(宮田珠己/著) 香りのチカラ(平野奈緒美/著) じつは伝わっていない日本語大図鑑(山口謠司/監修) すぐできる自力整体(矢上真理恵/著) 万能な副菜292(倉橋利江/著)



中山七里/著
『絡新婦の糸』
新潮社刊



西村亨/著
『自分以外全員他人』
筑摩書房



宮田珠己/著
『路上のセンス・オブ・ワンダーと
遙かなるそこらへんの旅』
亜紀書房

みんなの としょかん



ホームページ

市民図書館
TEL (921) 4646
FAX (921) 4896

としょかんカレンダー

令和6年	日	月	火	水	木	金	土
2					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29		

○印の日は、お休みです。

開館時間 午前10時から午後6時まで

金曜・土曜(祝日除く・太字の日)は午後7時まで

あまのとおかげ 天野遠景の解任

本紙の昨年9月号で紹介した通り、天野遠景は源頼朝によって九州に派遣され、「鎮西奉行」などと呼ばれ、頼朝の命令を現地で実行する出先機関としての役割を果たしていました。またそのために実務能力のある大宰府の役人の協力を得ていました。ここでは続いて、遠景がその後どうなったのかを取り上げたいと思います。

結末から言うと、遠景は建久5(1194)年頃までに解任され、関東に帰っています。それまでの間にどんなことが起きていたのか、紹介していきます。

文治2(1186)年の6月、遠景は筑後国瀬高庄(現みやま市・柳川市)に非法を働き年貢を差し押さえたとして、領主の徳大寺実定から鎌倉幕府に訴えられました。これに対し頼朝は、速やかに止めるよう指示しています。

文治3(1187)年の9月には、遠景が無実の罪を言い立てて島津庄(現鹿児島県宮崎県)に使者を送り込んだと幕府に訴えられており、頼朝は今後遠景の使者が島津庄に入部することを禁止し



～公文書館だより⑩～

ました。またその前後と見られる5月に、島津庄に漂着した唐船とその積荷を大宰府の役人が強引に奪う事件が起き、領主の近衛家が幕府に訴えています。頼朝は遠景に元に戻すよう指示しており、恐らく遠景もこの件に関わっていたと思われる。

続いて遠景が九州を去った後の嘉禄元(1225)年12月には、かつて遠景が宇佐宮(現大分県宇佐市)造管費捻出のための税を九州管内の庄園や寺社に対し、新たに均一に賦課したことが記されています。そのため以前は免除されていた宗像社(現宗像市)は、その領主である八条院(鳥羽天皇の皇女)が天皇に訴えて、あらためて免除されたそうです。

このように遠景は、庄園領主である京都の貴族たちと何度も衝突し、幕府に訴えられていました。これは遠景の施政に対し貴族らが激しく抵抗したことを意味し、遠景解任の原因の一つになったと考えられています。

太宰府市公文書館 大塚 俊司

【バックナンバーはこちら】 ページID7241